

2018年度  
学校法人梅花学園 事業計画書

2018年3月24日

## 梅花学園の建学の精神

キリスト教精神に基づき、他者への愛と

奉仕の精神を備える自立した女性を育成する

## 教学の理念

梅花学園は、キリスト教精神に基づき、人間として自分の生きる道を見出してその道を歩む力を身につけると共に、多様な価値観を認めて隣人と連帯する意欲を持つ人を育てる。さらにのびやかな感性を養い、調和のとれた知性をもって社会に適応すると共に社会に貢献する人が育つように努める

## スクール・モットー

人にしてもらいたいと思うことは何でも、  
あなたがたも人にしなさい。

(マタイによる福音書七章十二節)

## 2018年度 学校法人梅花学園 事業計画

### I. 学園の基本方針

建学の理念であるキリスト教精神に基づく人間教育を実践し、小規模な女子学園の特性を生かして以下に掲げる使命を果たす。

1. 各設置学校において、教育の特色を明確に打ち出し、育成しようとする人材像を社会に明示し、その約束を果たす。さらに、教育内容と学生・生徒・園児への各種支援・サービスを充実させ、満足度の向上を図る。
2. 総合学園であるメリットを生かして、学園内の学校間における教育連携事業を推進する。
3. 教職員の職能アップや学内の情報共有の徹底を通して組織間連携を向上させ、ガバナンスの強化を図る。
4. 全教職員に対しコンプライアンス教育を徹底し、就業規則と組織原則に基づき、教育機関に相応しいガバナンスを示す。
5. 各設置学校においては教育活動における事業活動収支の均衡をめざしつつ、中・長期的視野に立ち、法人全体として財務体質の強化を図る。また、各部門において経費の削減に努め、学生・生徒等の安定的確保を通して経常収支における均衡を図る。
6. 危機管理と情報管理を適正に行い、併せて外部の情報を積極的に収集し、これに基づき時代の要請に対応した先進的戦略に基づく経営を推進する。
7. 学内外に対し情報の公表を行い、教学および経営の説明責任を果たす。

### II. 学園改革への取組み

2018年1月に創立140周年を迎えた本学園が、今後も発展・継続していくためには、教育内容の充実のみならず、さまざまな観点から不断の改革に取り組むことが重要である。この改革により、学園全体のブランド力を向上させ、社会的評価を得ることが最重要課題である。この実現に向けて、各学校においては個々の教育改革を推進するとともに、学校間において連携・協力することが求められる。

1. 各設置学校は文部科学省が進める教育改革に対応し、教育内容の見直しと充実を図り、それぞれの教育目標に定める人材養成に沿った教育を推進する。
2. 安定した財政基盤を確立するために、入学者の確保と収容定員の充足に努める。このため、各設置学校においては各種行事・イベント等を通じて募集活動を強化する。
3. 高校・大学の教育と連携した「梅花歌劇団（劇団この花）」の諸活動・公演等を通して教育的展開を図り、学園全体の認知度とブランド力を高める。

### Ⅲ. 事業計画の概要

#### 1. 教学充実、学生・生徒・園児支援の取組み

##### (1) 大学

学園の基本方針に基づき、学生一人一人と家族同様に親身になって向き合い、学生の個性を尊重するオーダーメイド教育を通して教育目標の実現をめざす。

##### ① 建学の精神の浸透

- 1) 建学の精神であるキリスト教主義に基づく人間形成をめざすため、学生および教職員に対し、礼拝（チャペル・アワー）への積極的参加を促す。
- 2) 全教職員を対象に、本学園の建学の精神について学ぶ研修会を7月に開催する。
- 3) 茨木キャンパスにおける「チャレンジ&エレガンス」の具体的な実践を、学生および教職員に促す。

##### ② 教育・研究の充実

- 1) 教育の改革・改善に関する取組みを各教員に促し、教育目標を確実に実現する真の教育力をもつ大学をめざすため、優れた取組みに対して経費補助を行う。
- 2) 研究の活性化をめざして、積極的な研究活動を教員に促すとともに、優れた個人研究およびプロジェクト研究に対して助成の充実を図る。
- 3) 教員相互の授業参観や授業実践報告会、さらには学生による授業アンケートなどを通して、個々の教員の教育の改善および教育力の向上を図る。
- 4) 「グローバル・コミュニケーション・ビレッジ」を学生会館2階に新設し、すべての学生が気軽に外国文化に触れ、楽しく英語が学べるスペースになるよう、施設の充実を図る。
- 5) 教育方法や授業内容の改善・充実に役立てることを目的として、保護者に本学の授業を参観してもらう機会を設ける。

##### ③ 産官学の連携

- 1) 学生たちの向学心を引き出し、社会で活躍できる力を伸ばすため、産官学の連携を積極的に推進する。
- 2) グランフロント大阪ナレッジキャピタル「The Lab.」を学生の学びを公開する場、教員の研究活動の場、さらには企業との連携拠点として活用する。

##### ④ 学生支援

- 1) 出席管理システムやクラスアドバイザー制度などを活用して、在学生の学修状況の把握に努める。また、退学・除籍者の割合を減少させることをめざして、教職員によるきめ細かな学生支援と関連部署間の情報交換を徹底させる。特に、新入生に対しては、入学直後および定期的に学科単位で新入生全員の面談を行い、一人一人の状況を把握してそれに応じた丁寧なサポートを行う。
- 2) 1年次生および3年次生を対象に「大学生基礎力レポート」を実施し、その結果を分析することにより、教育改革並びに学生支援に役立てる。
- 3) 卒業後の就職対策として、各種の国家試験および採用試験の対策講座を実施する。  
また、MOS試験、日本語検定、TOEIC Listening & Reading IPなどの資格取得支援(受検料の補助)を引き続き実施する。

⑤ エレガントな女性の育成のために

1) マナー教育

エレガントな女性の育成に向けて、その手引書となる『梅花マナーブック』（改訂版）を基にマナー教育に取り組む。

2) 美しい日本語教育

共通教育科目の必修科目「美しい日本語（話し方）」や「美しい日本語（書き方）」を通して学生の言葉の素養を引き上げる。また、挨拶の励行や TPO に応じた正しい言葉遣いの実践に取り組む。

⑥ 学部・学科の取り組み

（文化表現学部）

国際英語学科：英語力向上のために「TOEFL-ITP」（年 4 回）、「TOEIC-IP」（年 2 回）の受験を推進する。また、1 年次生全員を対象に、総合旅程管理主任者の資格とともに海外インターンシップ 2 単位が取得できるニュージーランド海外研修を 9 月に実施する。

日本文化創造学科：日本の歴史や文化に触れ、学ぶために、新入生を対象に 1 泊 2 日の京都での宿泊研修を行う。また、書の歴史や文化への理解を深めるために中国において 5 泊 6 日の書道研修を実施し、さらに 4 年間の書道学習の集大成としての作品展示会を 3 月に開催する。

情報メディア学科：学修成果を発表する機会として、「広告・CM コンペ」や「ファッション・ファンタジー・ワールド」などを開催する。また、各コースのゼミ等を通して、KBS 京都放送での「BBS 梅花情報局」の番組制作など企業とのコラボ企画を実践する。医療事務・情報コースは、病院等において医療事務の実習を行う。

（心理こども学部）

心理こども学部のこども学科と心理学科において、「小動物看護師」と「小動物介護士」の資格取得講座を開講する。

こども学科：保育士と幼稚園教諭に加え、新たに小学校教諭の免許状の取得を可能とする。イベントとしては、地域の子供やその保護者を対象とする学生中心の「こどもフェスタ」を開催し、1 2 月のクリスマスイブニングには、造形・音楽・身体表現を通して子供たちが参加できるイベントを開催する。また、絵本の読み聞かせや身体活動を通じた健康意識を高めるためのイベントも実施する。

心理学科：基礎学力の向上とキャリアに対する動機付けを行うことを目的に、各授業の初めに小テストを行うブルミエプログラムを実践する。さらには、大学院心理臨床学専攻と一貫した「公認心理師」養成課程の充実を図る。また、犬・イルカ・馬・ゾウを介して行うアニマルセラピー実習を行う。

（食文化学部）

食文化学科：企業とのコラボを推進し、食品企業との間で新商品の開発をめざす。また、学生が考案したレシピを元に調理した商品を、大手スーパー・百貨店において販売する。さらに、ヨーロッパの食文化について学ぶためヨーロッパ

研修を行う。

管理栄養学科：管理栄養士として活躍するために体系化された専門基礎分野および専門分野について、科学的根拠に基づいた講義・実験・実習・演習を行う。管理栄養士の免許取得のため、初年次から国家試験対策に取り組む。

(看護保健学部)

看護学科：看護師および保健師の資格取得に向けて、1年次から4年次にかけて国家試験対策講座を行う。また、アクティブラーニングとしての協同学習をテーマとしたFD研修会や特別講演会を開催する。

口腔保健学科：本学科完成年度にあたり一期生の卒業と歯科衛生士資格および養護教諭一種免許状の取得に向け、国家試験対策と授業の充実をはかる。また、海外研修の実施ならびに学会シンポジウムを企画開催する。

## (2) 中学校・高等学校

建学の精神に基づく教育活動を通じて、コミュニケーション能力を高め、円滑な人間関係を構築し、真に社会貢献のできる、人間性豊かな自立した女性の育成をめざす。そのために、全教職員が建学の精神を共有し、「愛なる女学校」ならびに「チャレンジ&エレガンス」をテーマとして、日々の教育活動に活かすことをめざす。

### ① 中学新コース・高校新コース新専攻での授業開始

2018年度4月から、教育の充実を図り、より魅力のある学校を目指す中学新コース、高校新コース新専攻での授業を開始する。

### ② 専攻(コース)ごとの特色を活かした特別プログラムの実施

特色ある専攻(コース)に在籍する生徒の満足度向上、およびモチベーションの維持をめざし特別プログラムを実施する。

総合進学専攻(標準コース)

- ・大阪市立科学館、浪花教会訪問(1年生4月)：特別授業やプラネタリウム鑑賞などの体験学習を通して理系に対する興味づけを行う。また、浪花教会訪問で梅花学園創立について考える機会とする。
- ・職業体験(1年生5月)：コミュニケーションキャンプで実施。(滋賀県長浜市黒壁スクエア周辺)
- ・自己アピール&マナー研修(1年生11月)：大人の女性としてのコミュニケーション能力と立ち振る舞いを身につけるための宿泊研修を「新大阪ユースホテル」において元CAの方を講師に実施する。
- ・総合学習の時間を利用し「生け花」「茶室体験」「着付け」等を実施することにより、日本文化を理解し、礼儀作法を身につける。また、日本語検定を必修受験として対策講座を実施する。

特進S専攻(特進Sコース)

- ・勉強合宿：1年生3回、2年生2回の合宿を行い、大学受験に対するモチベーションを高める。
- ・長期休暇期間の特別講座：弱点克服やレベルアップをはかり、目標の達成をサポート

する。

- ・現代文特別授業：論理エンジン考案者の出口先生による特別授業により、学習法を考える機会とする。

#### 国際教養専攻（国際コース）

- ・イングリッシュキャンプ（1年生5月）：滋賀県長浜にてベルリッツ講師陣を中心に英語オンリーの宿泊研修を実施する。
- ・留学生との異文化協働体験型研修（1・2年生11月）：校内でコミュニケーション能力向上の実践の場として留学生との研修を実施する。
- ・3ヶ月カナダ留学（1年生3月～2年生6月）：カナダ・オンタリオ州でホームステイをしながら現地校で学ぶ。
- ・英語読み聞かせ（3年生3学期）：土曜朝の読書の時間を利用して中学1年生に英語で絵本の読み聞かせを行う。
- ・ベルリッツ・ブラッシュアップ英会話講座（7月から）：2年生でのカナダ3ヶ月研修事後学習として、英語運用能力のレベルアップのための特別プログラムを週1回放課後に実施する。（希望者）
- ・外交官による特別授業（11月）：外務省派遣の外交官による特別授業を実施する。国際情勢や外交官の役割等を聞くことでグローバルな視点を養う。

#### 医療看護専攻（医療看護コース）

- ・災害体験、小児応急手当教室（1年生4月）：大阪市立阿倍野防災センターにて応急処置を学ぶ。
- ・普通救命講習受講（1年生7月）：豊中市消防局から講師を招聘して豊中キャンパスにて受講する。
- ・病院実習（1年生10・11月）：西淀病院にて救急搬送患者の処置や血液検査のお手伝い、患者さんの食事配膳や手足を洗うなど看護師の日常業務を現場で体験する。
- ・プレママ講習会：ミキハウスの協力で幼児の特性や助産師として幼児に対する接し方等を学ぶ。
- ・実習ノートを梅花オリジナルで作成し、記録を取る習慣を身につけるとともに、文章表現力を養う。

#### こども保育専攻（こども保育コース）

- ・梅花幼稚園での保育体験：平常時の保育以外に年3回の遠足、夏祭り、バザー等の行事に参加して保育の現場を学ぶ。
- ・1年生は近隣幼稚園で、2年生は近隣保育園でのそれぞれ3日間の保育実習を実施し、将来の仕事に対する意識を高める。
- ・ピアノ発表会（全学年）：音楽室・円形講堂にてレッスンの成果を披露する場を設ける。
- ・スキー実習（2年生3月）：野沢温泉スキー場において、3泊4日のスキー・スノーボード研修を実施する。
- ・プレママ講習会：ミキハウスの協力で幼児の特性や保育士としての幼児に対する接し方等を学ぶ。
- ・実習ノートを梅花オリジナルで作成し、記録を取る習慣を身につけるとともに、文章表現力を養う。

#### 舞台芸術専攻（舞台芸術コース）

- ・劇団四季のミュージカル（3年生7月）、および、宝塚歌劇（2年生7月、1年生11月）のプロのステージを鑑賞し、卒業公演等へ向けモチベーションの維持を図る。
- ・芸術発表会“Dream Fest” 11月14日（水）梅田芸術劇場シアタードラマシティにて開催。コースの取り組みやクラブ活動の発表の場として、一般に広く知ってもらう機会とする。
- ・卒業公演 12月16日（日）：グランフロント大阪北館・ナレッジシアターにて第4回卒業公演を実施する。卒業生自らが演技のみならず、公演全体をプロデュースすることで、3年間の総まとめを行う。
- ・総合学習の時間を利用し、ボールルームダンス等の特別体験会を実施するなど、多様なダンスを体験する。

#### 調理・製菓専攻（調理・製菓コース）

- ・近隣の飲食店でのインターンシップを実施し、職に対して考える機会とする。
- ・調理製菓スペシャルプログラムとして、クラブハリエ出張実習・叶匠寿庵での和菓子作り体験（1年生5月）、神戸ケーニヒス クローネでの洋生菓子作り体験（2年生5月）などを通し、プロの職人から学ぶことで、菓子作りや職業に対する認識を高める。
- ・料理検定、菓子検定（辻製菓専門学校主催）受験（2・3年生）により、お菓子について知識や興味を高める。

#### ③ リベラルアーツコースのプログラム

- ・English Communication Day：国際教養専攻以外のリベラルアーツコースにおいても英語でのコミュニケーション力を養成するため、外部派遣のネイティブ講師や留学生とのアクティビティーおよびディベートの研修を実施する。
- ・リベラルアーツウィーク：各学期の期末考査終了後に、専攻・コースの特別プログラム（プレママ講習会、保育実習、救急救命法など）を実施し、生徒の資質向上をめざす。

#### ④ 実用英語検定（英検）の中学生・高校生全員受験

中学卒業時に3級、高校卒業時に特進S専攻（特進Sコース）・国際教養専攻（国際コース）は2級、他の専攻（コース）は準2級の全員取得を目標に掲げ、対策講座の充実を図ることにより、英語に対するモチベーションおよび英語運用能力の向上に努める。

#### ⑤ 2020年問題に向けての取り組み

- ・eポートフォリオ対策および校内試験・外部模試等の学力総合分析や、成績管理等のデジタル化に向けて、ベネッセClassiを中心に検討を行い導入をめざす。
- ・ベルリッツ英検対策講座、TOEFL受験対策講座の実施  
英語の4技能運用能力強化をめざし、ベルリッツ講師による英検対策講座およびトフルゼミナール講師によるTOEFL受験対策講座を放課後の時間を利用し実施する。

#### ⑥ English Only Space 設置

西館1階へEnglish Only Spaceを設置。ネイティブ教員が常駐する事で、All Englishの空間を増やし、日々英語に接する環境を整え英語力の向上をはかる。

⑦ 修学旅行の充実

- ・高校修学旅行は海外と国内の選択制とする。海外コースではプラハ、ウィーンに加えドイツ・マインツ等を訪問する。国内コース（沖縄・石垣島方面）では沖縄本島での平和学習および自主研修を新たに加える。
- ・中学修学旅行をハワイで実施することで、グローバルな視点を持つ生徒の育成をめざす。

⑧ 英語研修の充実

- ・高校国際教養専攻の3ヶ月学期留学はカナダ・オンタリオ州シムコー郡で、現地受け入れ高校を増やし実施する。また、夏期海外英語体験学習は、オーストラリア・タウンズヴィルで実施する。
- ・中学2年生は、福島県にある British Hills における英語宿泊研修を実施する。
- ・夏期・冬期休暇中に英会話力の向上をめざし、ベルリッツ講師による集中英会話講座を実施する。（希望者）
- ・同窓会の創設する留学支援制度により、中学3年生を対象として一定条件を満たせば、国際教養専攻の3ヶ月カナダ留学プログラムに参加を認める。
- ・食堂に設置した80インチテレビに常時CNNjのニュースを放映することで、常に英語を耳にする機会を作りリスニング力の向上をめざす。また、スカイプなどのシステムを用い海外とリアルタイムに交流をおこなう。

⑨ 新たな長期留学プログラムの検討

オーストラリア、北クイーンズランド州タウンズヴィルにある「聖マーガレットマリー高校」との間で「1年間の留学・ホームステイプログラム」締結に向けての検討を進める。

⑩ 中学総合学習等での取り組み

各学年で調べ学習を中心に行い、情報を収集・整理し発表することで生きる力を養う。また、全学年でマナー講座を受講することで、梅花の品位を体現できる生徒育成をめざす。さらに、シルク・ドゥ・ソレイユ（10月）のプロのステージを鑑賞し表現力の向上をめざし、感性を磨く。

1年生

- ・キザニアでの職業体験の事前事後に職業調べを実施し、将来の自分像を考える。
- ・3年生でのハワイでの修学旅行に向けて、英語コミュニケーションの実践の場として「オオサカイングリッシュヴィレッジ」で研修（1月）を実施する。
- ・「国」調べや、新聞作りを通して、情報を得る力・まとめる力・表現する力を養う。

2年生

- ・3年生のハワイ修学旅行に向けて、英語コミュニケーションの実践の場として福島県「British Hills」で宿泊研修（5月）を実施する。
- ・紙芝居を作り、発表することで、お話しをまとめる力・表現する力を養う。作成した紙芝居は発表会を実施する。

3年生

- ・ハワイ修学旅行に向けて、事前学習として調べ学習を行い、調べた内容をプレゼンテーションする機会（7～9月）を設ける。また、「インターナショナルマナー」と題した外部講師による講演会（9月）を通して、海外でのマナーについて考える。

⑪ 高大連携の充実 (Liberal Arts @ BAIKA)

梅花独自の魅力ある授業をめざし、梅花女子大学との高大連携授業科目の充実を図る。

- ・高校2年生高大連携選択科目：「Web制作」・「造形デザイン」
- ・高校3年生高大連携選択科目：「心理学入門」
- ・高校2年生「看護特講」「調理・製菓特講」月1回、高校3年生「看護特講」通年の授業を実施する。
- ・高校2年生「食育入門」「保育特講」、高校3年生「保育特講」「食品衛生学」の授業を通年で実施する。

⑫ 卒業展覧会・芸術作品展の実施

グランフロント大阪北館・アクティブスタジオにおいて、11月に卒業生を中心とした生徒の美術や書道など作品の展覧会を開催する。また、3月には芸術選択授業・高大連携授業・クラブ活動で創作した芸術作品の展覧会を実施する。これにより、生徒の情操教育・感性の向上をめざし、モチベーションを保つと共に、梅花ブランド力を広く一般にアピールする。

⑬ チャリティイベント&入試説明会の実施

1dayキャンパスおよび梅花コレクション（通称：うめコレ）を梅花女子大学との連携企画や学校説明会を組み合わせで開催する。この事により、出演者のモチベーションの持続や成長を期待すると共に、勢いのある「梅花」をアピールしていく。

・1dayキャンパス：6月10日（日）グランフロント大阪北館・ナレッジプラザにて開催予定
・うめコレ：9月23日（日・祝）グランフロント大阪北館・ナレッジプラザにて開催予定

⑭ クリスマス特別礼拝の実施

「ことばを聴く・みんなで讃美する礼拝」としてクリスマスを祝う特別礼拝を、茨木キャンパス澤山記念ホールで開催する。特別礼拝により創立者澤山の精神を再確認することで、建学の精神を理解し、隣人愛の精神を育てる。

・12月15日（土）梅花学園茨木キャンパス・澤山記念館
-----------------------------

⑮ 中学・高校 第5回山川登美子短歌文学賞の実施

中学・高校在校生を対象とした山川登美子短歌文学賞を継続実施する。短歌教育により言葉の感性を磨き、美しい日本語を考える機会とする。また、この短歌文学賞を通し、梅花女学校を卒業し与謝野鉄幹・晶子に並び称される明星派の歌人、山川登美子の文学的業績を顕彰する。

⑯ 不登校生への対応強化

不登校生徒を対象に「北館教室」を継続し、登校や進級に対して意欲的に取り組める環境づくりを行う。

⑰ 教師力向上に向けて

安定したより良い教師力を育成するため、PDCAサイクルを構築すると共に、教員研修の有効な実施法を研究し実施する。

⑱ ICT教育やeラーニングに向けて

中高全てのホームルーム教室に設置した電子黒板機能付きプロジェクターを効果的に用いた授業を展開するため、ICT教育プロジェクトチームを継続する。研究授業を続け、ICTを使った授業展開を多くの教員へ普及させる。また、これからの教育において必要不可欠になると考えられるICT教育やeラーニングについての教職員の意識付けやハード・ソフト面の研究に加え、アクティブラーニングの実施に向けての研究を行う。

⑲ 学校評価の実施

教員の自己評価、生徒による授業評価を7月および1月の年2回実施する。また、学外からの関係者評価を実施し、その結果を検証することを通して教学の充実を図る。また、結果をホームページ上に公開する。

⑳ 危機管理への取り組み

平素の危機管理システムの充実を図り、火災や地震などの災害時の対策として訓練・研修を年3回実施し、万が一の緊急時に備える。また、中学では登下校の安全学習として、防犯教室を実施する。

### (3) 幼稚園

教職員の保育力を高め、園児・保護者をはじめ地域社会からの信頼を強固なものにするため、教育研究や諸施策の充実を図る。また、併設の各学校や地域社会との連携強化により、幼稚園としての機能をより一層高めるなど総合力の向上を図る。

① 教師の保育力向上

キリスト教精神に基づく本園の教育理念に対する各教師の理解を深めるために、外部講師を保育アドバイザーとして招聘し、園内研究会を実施する。さらに、各機関の研修会参加等を通して、教師の保育力向上に努める。

② 保育関係者間の連携強化

女子大学こども学科と連携を取って、本園の幼児教育観を充分学生に伝え、幼児教育に対する知識を深めさせるよう配慮し、両者の共通理解を図る。また、高校の「こども保育コース・専攻」との連携を図り、実際の幼児教育現場での実習を通して生徒が保育に対する知識を高め、幼児教育への興味や意欲をもてるよう本園の保育の充実と向上に努める。

③ 子育て支援の強化

前年度に引き続き、預かり保育の時間延長を継続し、夏休み・春休み期間中にも預かり保育を実施する。また、月一回のキンダーカウンセリング等の専門分野からの子どもの発達や保護者の育児などの支援を充実させ、本園のみならず広く地域親子の子育て支援にも貢献する。

④ 危機管理体制の強化

安全で事故のない教育環境を保障するために、防犯教室や防災訓練等を実施し、危機管理体制の一層の充実を図る。幼児の安全確保への責任意識を個々の保育者がしっかり持ち、一丸となって園全体の危機管理に努める。

## 2. 学生・生徒・園児の受け入れ

### (1) 大学

#### ① 大学および学部・学科のセールスポイントの訴求

「チャレンジ&エレガンス」を人材育成のスローガンに掲げ、「仕事力あるおしゃれな女性」を育成するため、大学全体や学部・学科の取り組みと学びの内容を、受け取る側の目線を意識して表現し、伝えるようにする。

#### ② パンフレット

大学案内を部分改訂し、梅花女子大学の特長と魅力を受験生に具体的に伝えるようにする。また、様々な切り口から特集パンフレットを作成し、大学案内の内容を補完する。

#### ③ ホームページの展開

受験生をはじめとする閲覧者の動向マーケティングを行い、ビジュアルを重視しつつ、コンテンツを能動的に展開する。また、WEB広告やスマートフォン対応も行い、さらにはSNSとの連動により拡散効果を図っていく。

#### ④ マス広告の展開

マス広告は、テレビCMを中心に展開し、学園全体のブランディング広告として発信を行う。さらに岡山・高松地域での認知度アップと志願者増を狙ってCM放映を増加させる。また、WEB広告を活用するとともに交通広告を実施する。

#### ⑤ 進学相談会への参加

直接受験生と接触が持てる進学相談会・高校内説明会に積極的に参加する。また、高校内説明会には模擬授業や学問分野説明などがあるため、積極的に教員派遣を行う。さらに地方戦略の一環として、地方での進学相談会に参加する機会を増やし、同時にその地域の高校訪問を中心とした広報展開を行う。参加にあたっては大学の紹介および、相談会後のオープンキャンパスへの参加促進に注力する。

#### ⑥ DMを中心とした受験生へのダイレクトな広報展開

受験雑誌への出稿という広報から、直接受験生に一年を通じて必要な時期にアプローチするDMを中心とした広報展開をさらに強める。地域、志望分野、学年など、より詳細なセグメントを行い、対象者を絞り込みながら本学の情報を確実に伝達する。また、早期より実施するDMには主としてオープンキャンパスへの誘導を目的とし、後半は公募制推薦入試や一般入試への出願促進を目的としたDMとする。

#### ⑦ 高等学校との連携強化

高校訪問については、北摂地域や近畿圏内の高校で、本学への通学が可能な地域の高校を重点的に複数回の訪問を実施する。さらに入学実績校からの入学者数の安定化を図るため、連携協定をはじめとした親密な関係を築くよう働きかける。また、梅花高校については、昨年設置した「梅花女子大学インフォメーションデスク」を中心に生徒、保護者、教員に対して梅花高校内で行う本学のイベントや情報を発信し、生徒・保護者・教員から、大学への質問や相談に応じることができる体制を一層充実させる。

## ⑧ 塾・予備校との関係強化

塾・予備校に関しては、エリアを限定して訪問を重ねる。そのことにより近隣地域での地盤を固める。個人塾には、基本的な大学情報等を提供するなど「相手に歓迎される訪問」を行う。

## ⑨ オープンキャンパス

受験生が直接本学と接する機会として、5月以降11月までの間、毎月1～2回の頻度でオープンキャンパスを実施する。ここでは、学科紹介をはじめ、各種イベントを開催し、個別相談にも応じることにより、本学の魅力を受験生に伝える。

さらに、積極的に学外に出かけて本学の魅力をPRするための学外イベント（1 Day Campus など）をグランフロント大阪において実施する。このイベントは、梅花中学校・高等学校と共催することで、オール梅花としてのブランド力向上を図る。また、地方からの来場促進のため岡山と香川からオープンキャンパスバスツアーを実施する。

## ⑩ 入試制度改革

2019年度入試においては、口腔保健学科において新たにAO入試を実施する。また、一般入試では「英語」の学力検査において、外部の検定試験（英検、TOEIC など）の成績を代替とする制度を導入する。さらに、管理栄養学科の「理科」については、文系の受験生が受験可能となるように出題範囲を変更する。

## (2) 中学校・高等学校

### ① 入試広報体制の強化

塾・公立中学への訪問を強化する。特に近隣の徒歩・自転車通学圏内からの志願者増を図るために、大手塾だけでなく、近隣の中小の塾についても関係強化を図り、信頼関係を築く。

### ② 募集対策行事の充実

校内での高校入試行事は「学校説明会」2回、「オープンキャンパス」4回、「入試説明会」3回の年9回を、中学入試行事は「学校説明会」2回、「オープンキャンパス」4回、「学校体験会」1回の年7回と「プレテスト」3回を実施する。さらに校外での行事として「ナイト説明会」や「うめコレ」、「1 day campus」等のイベントをグランフロント大阪北館で実施する。

校内での入試行事では、専属アシスタントとして活動する生徒を募り、本校のアピールを強化する。

### ③ 塾対象説明会

年4回（6月ホテル阪急インターナショナルと校内、9・10月に校内で各1回）の実施とする。塾の先生方の利便性を図ると共に、梅花の教育の広報とブランド力向上をめざす。

### ④ ホームページの充実

学園全体の統一イメージに沿ってホームページを刷新する。常に新しい情報が提供できるように更新の頻度を上げ充実を図る。また、動画映像の掲載を積極的に進めると共に、スマートフォン対応への充実を図る。さらに、常に閲覧者の分析を行い、効果的

なホームページ運用をめざす。

⑤ Web広告および公式ツイッターの実施

パソコンやスマートフォンの普及を鑑み、Web広告・公式ツイッターを用いることで、本校ホームページへ導き注目度アップを図る。

⑥ 英検特待生の充実

英検の取得級により、中学は4級と3級以上の2段階、高校は3級、準2級、2級以上の3段階で特待生を認定することで、英語に対する興味関心の高い生徒の獲得をめざす。

⑦ スクールバスの運行

豊中キャンパス―少路駅間にスクールバスを運行し、大阪モノレール沿線および少路駅周辺地域の生徒募集を強化する。

⑧ 小学生対象英語暗唱大会の継続

第7回小学生英語暗唱大会「BAIKA CUP」を実施し、英語教育に対するイメージアップおよび入学者の確保に努める。

⑨ こどもミュージカルレッスンの継続

2016年度から開講している小学4～6年生対象のこどもミュージカルレッスンを実施する。

⑩ キッズレイダースの継続

小学3～6年生の児童を募集し、チアリーディングを通して梅花の良さをアピールする。

### (3) 幼稚園

① ホームページによる積極的な広報活動

ホームページを通して日常の保育の様子とその内容や特色を十分に広報し、保護者が本園の教育方針に対する理解を深め、入園意欲を高めるよう努める。また、高校こども保育コースとの連携活動の内容もホームページを通して広報し、総合学園としての特徴を積極的にPRしていく。

② 自己点検・自己評価活動の実施と広報展開

本園独自の教育の具体的な保育内容や、子育て支援および預かり保育等の取り組みについて、日常的な自己点検・自己評価活動を行い、その結果の公表等に積極的に取り組みながら教育の充実と改善に努める。この活動を通して保護者や地域住民の本園の特長についての理解促進をねらい積極的な情報提供を行う。

③ 未就園児教室の充実

次年度に3年保育入園対象となる未就園児親子が活動に満足し、入園に向けて意欲的になれるよう園教員と未就園児教室スタッフとがしっかり連携をとり、充実した教室運営を図る。未就園児対象の体操教室や園庭開放の充実を図り、地域にも広くPRをして、未就園児教室への入会、さらには年少組への入園に繋がる取り組みを強化していく。

#### ④ 課外活動の充実

外部から専門講師を招聘し、「音楽リズム」、「英語」、「絵画造形」、「体操」、「剣道」の各活動により一層の充実を図る。また、学園の公式クラブとしてのチアリーディングや大学のこども学科と連携をとっている「こづめ文庫」（絵本活動）においても本園独自の取り組みとして広報を強化し、保護者の入園意識へとつながるよう努める。さらに、兄弟姉妹関係の入園につながる卒園児のサークル活動（英会話、書道、バレエ）においても協力体制を維持する。

### 3. 財政健全化への取り組み

数年前から取り組んできた財政健全化への取り組みが功を奏し、直近2年間の事業活動収支において経常収支の黒字化が実現した。これは、収入面においては、各設置学校の入学定員充足による、学生生徒納付金の増収をはじめ、これに付随する補助金が増加したことにある。一方、支出面においては、教育研究費並びに管理経費の支出見直しをはじめ、少数精鋭による人件費の抑制によるものである。今後においては、これまでの方針を継続・維持しつつ、施設・設備の更新をふまえた長期的視野に立ち、基本金の組み入れを前提とした収支均衡を目指すこととする。

#### 【2018年度予算編成方針】

- ① 財政基盤の確立と安定を図るため、活動区分資金収支計算書における教育活動資金収支差額並びに事業活動収支計算書における経常収支差額を収支均衡とした予算編成を行う。
- ② 学生・生徒・園児数の増減によるもの等を除き、2017年度の配分基準額を上限としたゼロシーリング予算を基本とする。
- ③ 入学者数は、定員の充足を前提とする。
- ④ 各種補助金や寄附金等、外部資金の獲得を継続的に進める。
- ⑤ 各部門の予算単位においては、常に事業の見直しと検証を行うことにより、不要不急の支出を抑制するとともに、費用対効果に見合った事業を実施する。
- ⑥ 人件費については、人事計画に基づき現状を維持する。
- ⑦ 施設設備の取替・更新については、計画に基づき予算計上する。

### 4. 教育環境の整備

#### (1) 茨木キャンパス

##### (大学)

- ① 学生会館2階のグローバル・コミュニケーション・ビレッジの整備。
- ② 緑風館食堂・体育館の耐震補強。
- ③ 授業教室AV機器の更新。
- ④ 通学用スクールバスの一部更新。
- ⑤ 花と緑に囲まれたガーデンキャンパスの整備充実。

## (2) 豊中キャンパス

(中学・高校)

- ① 西館 1 階へ English Only Space の設置。  
ネイティブ教員を常駐する事で、オールイングリッシュの空間を増やし、日々英語に接することが出来る環境を整備する。(80 インチテレビの設置、CNNJ ニュースの放映)
- ② 西館特別教室(2教室)へ、電子黒板機能付きプロジェクターを設置。
- ③ 国際教養専攻のクラス増にともない、無線 LAN 設備を増設し iPad の使用環境を整備する。
- ④ 南館階段(中央、西側)および、本館階段(東側、西側)照明の LED 化。
- ⑤ 前庭の澤山保羅像周辺の環境整備。

以 上